

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：生活環境学科

資格：准教授

氏名：伊丹 康二

研究分野	研究内容のキーワード
建築計画学	郊外住宅地の再整備、コミュニティ施設の建築計画、公共施設の再編、まちづくり
学位	最終学歴
博士（工学）	大阪大学大学院 工学研究科 博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 第136回豊中まちづくりフォーラム「建築計画からのまちづくり」	2019年6月25日	公共施設の建築設計から利用段階まで関わりながら設計コンセプトの実現を試行した2つのプロジェクトを紹介し、建築とまちづくりの関係について議論を行った。
2. 公開講座「開発者主導の計画的住宅地から住民主体の住宅地へ」	2017年9月	大阪大学21世紀懐徳堂と大阪市都市計画局が主催する21世紀懐徳堂i-spot 講座（住民を対象とした講演会）に講師として登壇し、開発者主導による計画的住宅地を、住民主体の住宅地にしていくための方策について講演した。
3. SHONAI L.O.O.P プロジェクト	2017年4月2019年3月	豊中市の庄内温水プール跡を含むグリーンスポーツセンターの第2期工事の基本計画を、大阪大学工学部地球総合工学科4年～大学院2年の有志とともに、地域住民と対話しながら作成した。さらに、学部2年の授業（大阪大学）として、建築とアートによる「世界の庄内／プールの記憶の巡回展」を開催するなど、建築設計だけでなく、ソフト面のデザインも一貫して行う取り組みを進めた。（他に再掲あり） 担当者：伊丹康二、森野晋次、飯田匡
4. 箕面公園プロジェクト2016	2016年4月2017年3月	大阪大学の学生が基本計画を作成した大阪府営箕面公園の夫婦橋休憩所と便所が、2016年3月に竣工した。基本計画時に掲げた設計コンセプトを実現するため、建築とアートにより新しい風景をつくる4企画を含む、計6企画を実践した。計画、設計から利用段階まで含めた取り組みを行うことで、建築を作ることを意味を考える教育の機会が提供した。（他に再掲あり） 担当者：伊丹康二、森野晋次
5. 近畿大学 建築学部 非常勤講師	2014年9月2019年3月	3D-CAD演習を担当。
6. 箕面公園プロジェクト2014	2014年2月2015年3月	大阪府営箕面公園の夫婦橋休憩所と便所の建て替えに際し、大阪大学の有志（学部2年～大学院1年）とともに基本計画を作成した。（他に再掲あり） 担当者：伊丹康二、飯田匡、横田隆司
7. 大阪大谷大学 短期大学部 非常勤講師	2007年4月2011年3月	住居情報処理演習（基礎）、住居情報処理演習（応用）、コミュニティ論を担当。
8. 大谷女子大学 短期大学部 非常勤講師	2005年4月2006年3月	住居情報処理演習（基礎）、デザイン学、デザイン学基礎実習、デザイン学実習を担当。
9. 現代的教育ニーズ取組支援プログラム「リノベーションまちづくりデザイナーの養成」 特任助手	2004年4月2007年3月	2004年度から3年間、文科省の現代GPの「地域活性化への貢献」分野に採択された本プログラムにおいて、特任助手として担当した。本プログラムは、千里ニュータウンをフィールドとして学内外からの受講生に対して、地域のまちづくり課題に総合的・統合的に取り組める人材の養成を目標とした。具体的には、基礎的知識の学習、まち歩き、現地調査、ワークショップによる課題の明確化、総合的デザイン方策の検討、成果発表などを行った。 担当者：新田保次、澤木昌典、吉村英祐、伊丹康二 他8名
10. 大谷女子短期大学 非常勤講師	1999年4月2005年3月	情報処理演習、情報処理基礎演習、住居情報処理演習（基礎）、デザイン学基礎実習、デザイン学を担当。

4 その他		
1. 箕面公園プロジェクト2015	2015年4月2016年3月	箕面公園プロジェクト2014において夫婦橋休憩所と便所の建て替え基本計画を作成した学生（大阪大学）5名が、竣工までの1年間、ベンチやサインの製作などを行うにあたって、助言や関係者との調整などのサポートを行った。（他に再掲あり） 担当者：伊丹康二

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 泉大津市都市計画審議会 委員 2. SHONAI L. O. O. P プロジェクト	2018年7月 2017年4月2019年3月	庄内温水プール跡を含むグリーンスポーツセンターの第2期工事の基本計画作成およびソフト面のデザインを行うにあたり、豊中市の担当各課との協議、学生の設計案への指導、建築とアートによる巡回展の企画、調整、実践など、プロジェクトの代表として全体を取りまとめた。 担当者：伊丹康二、森野晋次、飯田匡
3. 泉大津市都市計画マスタープラン策定委員会 委員	2017年3月2018年3月	
4. 豊中市市有施設有効活用委員会 委員長	2016年7月2017年6月	
5. 高島市行財政改革委員会 委員	2016年2月	
6. 豊中市営住宅指定管理者選定評価委員会 委員	2015年4月	
7. 豊中市政策評価委員会 委員	2014年6月	
8. 箕面公園プロジェクト2014～2016	2014年2月2017年3月	
9. 豊中市市有施設有効活用委員会 委員	2013年7月2016年6月	
10. 豊中市市営住宅指定管理者選定評価委員会 委員	2013年6月2013年12月	
11. 豊中市改革創造会議 委員	2010年10月2013年3月	
12. 豊中市営住宅及び豊中市立豊中駅西自動車駐車場指定管理者選定委員会 委員	2010年1月2010年8月	
13. 豊中市都市計画マスタープラン策定検討委員会委員	2008年8月2011年3月	
4 その他		
1. オールド・ニュータウンの再生と今後のあり方研究会 委員	2019年4月2021年3月	URリンケージ主催の研究会に参画し、オールド・ニュータウンの再生計画の現状を俯瞰し、今後の住宅地のあり方について提言を行った。 URリンケージ主催の研究会に参画し、千里ニュータウンの団地再生における魅力づくりのポイントについて提言を行った。 団地再生専門家バンク登録制度（兵庫県県土整備部住宅建築局住宅政策課）により、ニュータウン再生コーディネーターとして猪名川町に派遣され、地区計画見直しに関する「日生ニュータウンまちづくりワークショップ」（猪名川町まちづくり部都市政策課主催）を実施した。 高島市および（一財）地方自治研究機構による共同研究において、委員として参画し、平成の市町村合併により公共施設の総量が増大した高島市において、公共施設の再編を検討する際の評価手法および方向性について議論を行った。 （公社）都市活力研究所を委託者、（公社）都市住宅学会関西支部を受託者とし、同支部の「郊外・すまいと鉄道研究委員会」（武庫川女子大学、関西学院大学、関西大学、大阪大学の4研究室合同）により、郊外駅及び駅前生活拠点の可能性についての調査研究を実施した。
2. 千里ニュータウンの団地再生による魅力あるまちづくり研究会 委員	2019年2月2019年6月	
3. 猪名川町日生ニュータウンまちづくりワークショップ	2016年8月2017年3月	
4. 合併市町村における公共施設の再編に関する調査研究	2015年4月2016年3月	
5. 駅から始まるコンパクトシティ形成促進方策に関する研究	2014年6月	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 公共施設の再編-計画と実践の手引き-	共	2015年2月	森北出版	概要：人口減少が進みつつある現在、自治体には公共施設総量の縮減と公共サービスの見直しが求められている。公共施設の計画論の視点から、施設群全体の再編計画および個々の施設のストック活用のあり方と方法を示した。 執筆者：池添昌幸、西野辰哉、伊丹康二、山本康友 他11名 担当箇所： 4-3 再編計画の先進例 2-現況施設の評価をベースとしたボトムアップ型（豊中市），pp. 45-51 5-3 公営住宅における機能変更による再編，pp. 85-94 9-1 用途変更，pp. 151-162

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
1. ニュータウンにおける街角施設の発生実態からみた街角施設の導入手法に関する研究	単	2003年3月	大阪大学	概要：ニュータウンの計画時から住宅用地への施設発生を誘致あるいは誘導したニュータウンにおいて、その導入手法を検証、評価することで、今後のニュータウンにおける街角施設の導入手法に対する提言を行った。
3 学術論文				
1. 商店街における街路整備が来訪意識に及ぼす影響に関する研究-福山市本通り商店街の街路整備を例に-	共	2020年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 193-200, (一社) 日本建築学会	朴鏞元, 伊丹絵美子, 伊丹康二, 横田隆司
2. 郊外分譲戸建住宅地における統一された外構形態の変化とその影響要因 -大阪府堺市美原さつき野団地を対象として-	共	2020年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 281-286, (一社) 日本建築学会	伊丹絵美子, 小林史佳, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡
3. 南ジャカルタにおける公共マーケットの再生についての事例分析 -Pasr Santaの事例を中心に-	共	2019年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 223-228, (一社) 日本建築学会	朴鏞元, Tika Laras Kusuma, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡
4. コミュニティスペースを有する民間施設の実態と利用者意識に関する研究 -兵庫県尼崎市の7施設を対象として-	共	2019年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 151-156, (一社) 日本建築学会	艾悦西, 松林巧, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡
5. 民間開発郊外分譲戸建て住宅地における住民の世代別にみた地域に対する意識 -大阪府堺市美原さつき野団地を対象として-	共	2019年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 69-74, (一社) 日本建築学会	伊丹絵美子, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡, 艾悦西
6. 重要伝統的建造物群保存地区に選定された醸造町における地場産業施設の活用に関する研究	共	2019年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 223-228, (一社) 日本建築学会	伊丹康二, 増田涌志, 横田隆司, 飯田匡
7. 民間開発団地における分譲時の住宅施工者と住民との継続関係に関する研究 -2団地の住宅管理段階の物販・工事の発注状況の比較を通じて-	共	2019年12月	住宅系研究報告会論文集, 第14号, pp. 169-174, (一社) 日本建築学会	伊丹絵美子, 横田隆司, 伊丹康二
8. 利用者の意識からみた健全な高齢者向け福祉施設のあり方に関する研究-中国・西安市における20社区居宅養老施設を例として-	共	2018年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 51-58, (一社) 日本建築学会	艾悦西, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 呉農 概要：中国の西安市における社区居宅養老施設20施設を対象として、施設の用途や規模および空間構成から社区居宅養老施設の建築計画的な特徴を明らかにした。また、利用者へのアンケート調査から今後の社区居宅養老施設に求められる機能を提示した。
9. 神社・寺院を含む地域施設の管理と行事運営の実態に関する研究-三重県熊野市を対象として-	共	2018年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 219-226, (一社) 日本建築学会	多田正治, 小刀夏未, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要：熊野市の集落における宗教施設と公共コミュニティ施設の管理運営と利用実態を把握することで、従来宗教施設が担ってきた地域の祭りを公共コミュニティ施設が部分的に補っていることを明らかにし、公共集会施設の再編に向けた示唆を得た。
10. 大規模総合大学における食堂テラス席の利用実態 -大学キャンパスの福利施設の建築計画に関する研究(その2) -	共	2018年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 73-78, (一社) 日本建築学会	吉岡聡司, 門田啓暉, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要：大阪大学におけるテラス席を有する食堂を対象として、食堂利用者の行動特性を明らかにし、テラス席を有する大学食堂の建築計画的知見を得た。
11. 大阪府宮箕面公園における夫婦橋休憩所・トイレの建替計画を含む夫婦橋エリアのデザイナー設計コンセプトの実現に向けた取り組み -	単	2017年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 101-106, (一社) 日本建築学会	伊丹康二 概要：大阪府宮箕面公園の夫婦橋休憩所・トイレの建替に際し、官学連携により基本計画を作成し、その設計コンセプトを施工時および竣工後まで継ぎついで、夫婦橋エリアの価値向上を試みた。本論文では、その新たな取り組みの経過を記録し、効果の検証を行った。
12. 全蓋式アーケードの撤去による商店街の店舗構成と店主の意識の変化に関する研究	共	2017年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 119-124, (一社) 日本建築学会	伊丹康二, 赤尾大樹, 横田隆司, 飯田匡 概要：全蓋式アーケードを撤去した大阪府下の商店街を対象として、撤去前後における店舗構成の変化と店主の意識の変化を把握することで、アーケード撤去による商店街の店舗構成と店主の意識への影響を明らかにし、今後のアーケードの維持管理に対する示唆を得た。
13. 市民活動を支えるレンタルスペースを持つ民間施設の開設プロセスと運営に関する研究	共	2017年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 179-186, (一社) 日本建築学会	木村優, 横田隆司, 伊丹絵美子, 伊丹康二, 飯田匡 概要：市民活動を支援するレンタルスペースを持つ民間施設を対象として、その開設プロセスと運営形態を明らかにし、ソーシャルキャピタルの一つである運営者の人的ネットワークが開設と運営に及ぼす影響を提示した。
14. 高齢者に対する社区居宅養老施設の配置実態に関する研究	共	2017年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 47-52, (一社) 日本建築学会	艾悦西, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 呉農 概要：中国の西安市における社区居宅養老施設20施設を対象として、その分布特性と周辺の人口分布を明らかにすることで、統一した設置基準がない社区居宅養老施設の整備に向けた計画指針を提示した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
15. 住宅地内の施設発生を誘導したニュータウンにおける施設の発生実態に関する研究－ウッドタウンと西神南ニュータウンを中心として－	共	2017年12月	住宅系研究報告会論文集, 第12号, pp. 301-308, (一社) 日本建築学会	増田湧志, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡 概要: 様々な手法によって、住宅用地内に店舗等の地域施設(街角施設)を導入したニュータウンを対象として、誘致、誘導、自然発生という3種類の導入手法別に施設発生の実状と経年変化を明らかにし、街角施設導入施策の検証を行った。
16. ニュータウンの地区センターにおける施設構成と鉄道による来街者が利用する施設に関する研究－千里ニュータウンと泉北ニュータウンの6地区センターを対象として－	共	2016年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 201-206, (一社) 日本建築学会	伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡, 栗山和也 概要: 千里ニュータウンと泉北ニュータウンの6地区センターを対象として、現在の業種別施設数を明らかにし、ニュータウン建設当初の機能的な位置づけからの変化を明らかにした。また、パーソントリップ調査を用いた来街者の行動と現在の業種別施設数の関係を把握することで、地区センターの機能分担に向けた示唆を得た。
17. 千里・泉北ニュータウンの人口構成と近隣センターの施設構成の経年変化－ニュータウンの近隣センターに求められる役割に関する研究－	共	2016年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 207-212, (一社) 日本建築学会	木村優, 横田隆司, 伊丹絵美子, 伊丹康二, 飯田匡 概要: 千里ニュータウンと泉北ニュータウンを対象として、近隣センターの店舗構成の変化を把握し、行政による計画や提言に示された近隣センターに求められる役割との相違や、住区の人口構成の変化との関係を示すことで、今後の近隣センターの役割について示唆を得た。
18. DIY促進に向けた建築関連事業者によるサポートとサポートの利用者の意識に関する研究	共	2016年12月	住宅系研究報告会論文集, 第11号, pp. 99-106, (一社) 日本建築学会	伊丹康二, 永井麻美, 横田隆司, 飯田匡 概要: 建築関連事業者による木工教室などDIYのサポートの実施状況と、そのサポートの利用者のDIYに対する意識を明らかにすることで、DIYの適切な促進、普及に向けた多様な主体によるサポートのあり方を提示した。
19. 地下鉄駅直結ビル低層部の空間構成とその利用・評価に関する研究	共	2015年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 7-14, (一社) 日本建築学会	兪維, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 山田佑亮 概要: 地下鉄駅に地下空間で直結するオフィスビルなどが増加する中、大阪市のビジネス街における地下鉄駅直結ビルの通路空間と公共空間の物的環境、公共空間での滞在行動および通路空間の印象評価を明らかにすることで、地下鉄駅直結ビル低層部の建築計画に対する知見を示した。
20. 地域商業の復興に向けた仮設商店街の運営実態と役割に関する研究－岩手県大槌町を中心として－	共	2015年7月	地域施設計画研究, 第3号, pp. 155-162, (一社) 日本建築学会	伊丹康二, 横田隆司, 伊丹絵美子, 飯田匡, 藤川結華 概要: 岩手県大槌町を対象として、東日本大震災前後の店舗分布の変化を把握した上で、仮設商店街の商店会、商店主、利用客などへのヒアリング調査を行い、被災商店主、被災住民、外部支援者、観光客からみた仮設商店街に求められる役割について考察を行った。
21. 韓国大邱広域市の集合住宅団地における共用施設の運営実態と住民の意識に関する研究	共	2014年7月	日本建築学会計画系論文集, 第701号, pp. 1487-1495, (一社) 日本建築学会	李修珍, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡 概要: 韓国の大邱市にある集合住宅団地38団地の共用施設を対象として、施設の管理運営や利用実態、住民の住意識を明らかにすることで、共用施設の有効活用に向けた方策を検討した。
22. 入居後約2年を経た仮設住宅団地における外部支援の現状と課題－仮設住宅団地での住民の安寧な生活に向けた研究 その1－	共	2014年7月	地域施設計画研究, 第2号, pp. 163-170, (一社) 日本建築学会	伊丹絵美子, 伊丹康二, 中塚貴志, 横田隆司, 飯田匡 概要: 東日本大震災後の大槌町と気仙沼市の仮設住宅団地、計17団地を対象として、第三者による様々な支援活動の現状と課題を、住民の視点から明らかにし、今後の第三者による支援活動に対する知見を示した。
23. 賃貸集合住宅におけるコミュニティ形成支援に関する考察－2つの賃貸集合住宅を対象とした実践を通して－	共	2014年7月	地域施設計画研究, 第2号, pp. 29-36, (一社) 日本建築学会	伊丹康二, 中塚貴志, 横田隆司, 飯田匡 概要: 公的賃貸集合住宅と民間賃貸集合住宅におけるコミュニティ形成支援の実践的な取り組みを通して、賃貸集合住宅におけるコミュニティ形成支援のあり方について考察を行った。
24. 集合住宅の公開空地と隣接する公共空間の連続性に関する研究－大阪市の集合住宅を対象として－	共	2014年7月	地域施設計画研究, 第2号, pp. 37-43, (一社) 日本建築学会	伊丹康二, 山上裕之, 横田隆司, 飯田匡, 李修珍 概要: 大阪市内の総合設計制度によって整備された集合住宅の公開空地を対象として、隣接する公共空間との空間的な連続性を明らかにし、複数の公共空間が隣接した際の計画手法について問題提起を行った。
25. 入居後約2年を経た仮設住宅団地における集会施設の配置と利用の状況－仮設住宅団地での住民の安寧な生活に向けた研究 その3－	共	2014年7月	地域施設計画研究, 第2号, pp. 177-184, (一社) 日本建築学会	藤川結華, 伊丹康二, 伊丹絵美子, 土中萌, 横田隆司, 飯田匡 概要: 東日本大震災後の大槌町と気仙沼市の仮設住宅団地計17団地を対象として、団地内集会施設のハード面と、管理運営などソフト面の現状を明らかにし、それらの関係性を示した。
26. 入居後約2年を経た仮設住宅団地における自治力とコミュニティの現状と課題－仮設住宅団地での住民の安寧な生活に向けた研究 その2－	共	2014年7月	地域施設計画研究, 第2号, pp. 171-176, (一社) 日本建築学会	伊丹絵美子, 伊丹康二, 土中萌, 中塚貴志, 横田隆司, 飯田匡 概要: 東日本大震災後の大槌町と気仙沼市の仮設住宅団地、計17団地を対象として、自治会と地域支援員の活動状況を明らかにすることで、自治力向上お

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
27. 「街バル」開催時の回遊行動特性と街に対する印象評価に関する研究—大阪野田・福島地区を対象に—	共	2014年12月	情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集, 第37号, pp.1171-1177, (一社) 日本建築学会	よびその基盤となるコミュニティ醸成に向けた方策を示した。 兪維, 宗田明大, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 商店街の活性化策の一つとして「街バル」を取り上げ、「街バル」開催時における参加者の行動をGPSにより把握、分析すると同時に、参加前後による商店街や街に対する印象の変化を把握することで、「街バル」の効果を検証した。
28. 回遊型商業地区における店舗などの空間構成と来街者の滞留特性に関する研究—大阪市西区の堀江と新町を対象として—	共	2013年7月	地域施設計画研究, 第31号, pp. 245-250, (一社) 日本建築学会	兪維, 勝田裕子, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 大阪市西区の堀江地区と新町地区を回遊型商業地域と位置づけ、両地区における店舗構成とその店舗前の滞留者の群集密度との関係を明らかにすることで、回遊性の高い商業地区の計画手法を探った。
29. ヒアリング調査からみた市街地における障がい者のバリアフリー生活圏の構築に関する基礎的研究	共	2013年7月	地域施設計画研究, 第31号, pp. 23-28, (一社) 日本建築学会	柳尚吾, 飯田匡, 横田隆司, 伊丹康二 概要: 大阪府豊中市に在住の障がい者8名を対象に、在宅生活と徒歩圏内の施設利用状況を明らかにし、バリアフリー生活圏構築に向けた知見を得た。
30. 韓国の集合住宅団地内における「環境造形物」の設置実態と周辺環境との形態調和に関する研究	共	2013年7月	地域施設計画研究, 第31号, pp. 35-42, (一社) 日本建築学会	李修珍, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡 概要: 韓国の集合住宅団地を対象として、環境造形物(アート作品)の設置位置と形態の傾向を把握した上で、住民へのアンケート調査により環境造形物に対する意識と評価を明らかにし、環境造形物の設置基準に対する提言を行った。
31. 災害時における共助と公助が果たす役割と住民の認知度に関する研究	共	2013年7月	地域施設計画研究, 第31号, pp. 199-206, (一社) 日本建築学会	伊丹康二, 南未穂, 横田隆司, 飯田匡 概要: 大阪府と奈良県下の4地区を対象に、共助と公助に対応した防災に関わる拠点を把握すると同時に、防災組織の構成と役割を明らかにし、自助、共助、公助が連携した地域の防災計画づくりに向けた提言を行った。
32. 仮設住宅団地の生活利便性とコミュニティ形成の現状と影響要因—気仙沼市の10団地を対象として—	共	2013年7月	地域施設計画研究, 第31号, pp. 193-198, (一社) 日本建築学会	伊丹絵美子, 伊丹康二, 櫻井壯, 横田隆司, 飯田匡 概要: 東日本大震災後の気仙沼市における仮設住宅団地10団地を対象として、住民へのヒアリング調査を行い、生活利便性とコミュニティ形成の現状と、それらへの影響要因を提示した。
33. ソーシャル・キャピタルと住みよさに関する居住者の意識との関係—地方都市郊外における新興住宅地と既存集落を対象として—	共	2013年6月	日本建築学会計画系論文集, 第688号, pp. 133-134, (一社) 日本建築学会	伊丹絵美子, 横田隆司, 伊丹康二, 佐野こずえ, 飯田匡 概要: 高松市の郊外住宅地と既存集落における住民のソーシャル・キャピタルを比較し、ソーシャル・キャピタルと住民の住みよさに関する意識との関係を明らかにすることで、両住宅地における今後の住みよさを維持・向上させる方策を検討した。
34. 分譲集合住宅における共用施設の利活用促進の要因に関する研究—積極的に利活用を促進する5集合住宅を対象として—	共	2013年12月	住宅系研究報告会論文集, 第8号, pp. 35-42, (一社) 日本建築学会	李修珍, 山田彩佳, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡 概要: 集会所等の共用施設を積極的に利活用している民間分譲集合住宅を対象として、その管理運営と利用実態を明らかにし、共用施設の利活用が促進される建築計画的要因を示した。
35. 韓国大邱広域市の集合住宅団地における共用施設の設置実態に関する研究	共	2013年12月	日本建築学会計画系論文集, 第694号, pp. 244-245, (一社) 日本建築学会	李修珍, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡 概要: 韓国の大邱市を対象として、集合住宅団地における共用施設の設置基準を整理したうえで、実際に整備された共用施設の規模、配置、空間特性を分析し、それら施設の設置実態を明らかにした。
36. ソウル特別市の障がい者住居環境改善事業の事例研究—屋内歩行形態に対応した住宅のバリアフリー改修に関する研究—	共	2012年9月	日本建築学会計画系論文集, 第679号, pp. 201-204, (一社) 日本建築学会	柳尚吾, 飯田匡, 横田隆司, 伊丹康二 概要: 「2009年ソウル市住居環境改善事業」によって住宅改修を行った100世帯を対象として、障がい者の屋内歩行形態からみた住宅改修ニーズを明らかにすることで、障がい者の住宅内環境の改善に向けた知見を得た。
37. 公共集合住宅団地への生活支援サービス導入による周辺地域との関係性に関する研究	共	2012年7月	地域施設計画研究, 第30号, pp. 61-68, (一社) 日本建築学会	伊丹康二, 上田明法, 李修珍 概要: 公共集合住宅団地における低・未利用空間の活用事例を新聞などから収集、分析し、その活用場所と活用用途の傾向を把握した。また、団地内の低・未利用空間に生活支援サービス機能を導入した大阪市営住宅、兵庫県営住宅、UR住宅を対象に、その運営と利用実態を明らかにし、低・未利用空間の活用方法としての効果を検証した。
38. 宗教施設における非日常時の対応と非常時に果たす役割に関する研究	共	2012年7月	地域施設計画研究, 第30号, pp. 269-276, (一社) 日本建築学会	伊丹康二, 麥谷隆之, 横田隆司, 飯田匡 概要: 東日本大震災直後に避難所として利用された宗教施設の運営実態を明らかにし、その有用性を示した。また、天理教の祭事における天理市内の天理教関連施設の利用実態から、災害など非常時における対応力を考察した。
39. 自治体における公共施設再編に向けた用途変更の実態と課題に関する研究	共	2011年7月	地域施設計画研究, 第29号, pp. 67-74, (一社) 日本建築学会	伊丹康二, 川合美紗子, 横田隆司, 飯田匡 概要: 大阪府豊中市における公共施設の用途変更の

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
る研究			日本建築学会	履歴を整理し、その特徴を明らかにした。また、用途変更を行った9事例の運営者へのヒアリング調査から、用途変更を行う上での建築計画的課題を示した。
40. 水辺の集合住宅における居住者の意識と居住環境評価に関する研究－琵琶湖と西宮浜の比較を通して－	共	2011年7月	地域施設計画研究, 第29号, pp. 149-154, (社) 日本建築学会	川村将登, 李明權, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 李修珍 概要: 琵琶湖畔と西宮浜の沿岸域に立地する集合住宅を対象として、住民へのアンケート調査から親水活動や居住環境満足度など住環境への意識を明らかにすることで、ウォーターフロントにおける集合住宅計画に対する建築計画的知見を示した。
41. 関西圏の鉄道駅改札内コンコースにおける休憩スペースなどでの滞在行動特性－鉄道駅舎の複合化に関する研究(3)－	共	2011年6月	日本建築学会技術報告集, 第36号, pp. 627-632, (社) 日本建築学会	横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 大阪モノレールと一般鉄道の駅を対象として、駅改札内コンコースに設置された座席付休憩スペースや絵画等の展示ギャラリーにおける乗降客の滞在行動を調査分析し、その行動特性を明らかにした。
42. 関西圏の鉄道駅改札内に設置された施設周辺の間行動特性－鉄道駅舎の複合化に関する研究(2)－	共	2011年2月	日本建築学会技術報告集, 第35号, pp. 277-282, (社) 日本建築学会	横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 大阪モノレールと一般鉄道の17駅を対象として、駅改札内に設置された休憩施設や商業施設への立寄り行動と、その周辺での行動特性を明らかにし、今後の駅複合化に向けた技術的知見を得た。
43. 「中古購入」と「継続居住」の違いからみた戸建住宅のリフォームの特徴に関する研究	共	2011年12月	住宅系研究報告会論文集, 第6号, pp. 39-44, (社) 日本建築学会	高木恭子, 横田隆司, 伊丹康二, 上田規弘 概要: 住宅関連雑誌に掲載されているリフォーム済みの戸建て住宅を対象として、中古住宅の購入と同時にリフォームを行った場合と住みながらリフォームを行った場合の、リフォームの内容の違いやプラン変更の傾向を示した。
44. 大規模ショッピングセンターにおける休憩スペースの空間構成と利用実態に関する研究	共	2010年7月	地域施設計画研究, 第28号, pp. 103-110, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 澤田碧, 横田隆司, 飯田匡 概要: 長時間滞在型のショッピングセンターを対象として、休憩スペースの平面構成、断面構成、座席の配置の3点から休憩スペースの空間的特徴を明らかにすると同時に、休憩スペースの利用形態を把握し、休憩スペースの空間構成と利用形態の関係を明らかにした。
45. 民間主導の開発住宅地居住者の日常行動と居住環境評価に関する研究－奈良市学園前駅周辺を対象として－	共	2010年12月	住宅系研究報告会論文集, 第5号, pp. 145-150, (社) 日本建築学会	佐野こずえ, 横田隆司, 伊丹康二, 伊丹絵美子 概要: 近鉄学園前駅周辺の郊外住宅地を対象として、居住環境に対する意識、買物行動、コミュニティの広がりや地域活動を明らかにし、これからの郊外住宅地の持続可能な活性化に向けた方策を検討した。
46. 公的集合住宅の建て替え前後における団地内集会所の変化に関する研究－大阪府住宅供給公社住宅と大阪府営住宅を対象に－	共	2010年12月	住宅系研究報告会論文集, 第5号, pp. 235-242, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡, 曾我航 概要: 建て替えを行った公的集合住宅を対象として、団地内集会所の配置や規模、機能などのハード面と、管理や運営、利用などのソフト面について建て替え前後の比較を行い、その変容実態を明らかにすることで、建て替え時の団地内集会所の配置計画や運営手法に対して提言を行った。
47. 関西圏の鉄道駅における改札内店舗設置の実態－鉄道駅舎の複合化に関する研究(1)－	共	2010年10月	日本建築学会技術報告集, 第34号, pp. 1081-1086, (社) 日本建築学会	横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 関西圏の鉄道駅における改札内店舗の業種構成や配置計画を明らかにしたうえで、乗降客による店舗の利用行動を把握し、商業施設の複合化を含めた今後の駅施設に対する建築計画的知見を示した。
48. ミュージアムにおける無料ゾーンの平面構成からみた設計者と運営者の意識に関する研究	共	2009年7月	地域施設計画研究, 第27号, pp. 93-100, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 伊達翔, 横田隆司, 飯田匡 概要: 美術館や博物館の無料で利用できるエリア(無料ゾーン)の平面構成、設計者の意識、運営者の意識から、無料ゾーンの利点および問題点を明らかにし、今後のミュージアムにおける無料ゾーンの有効活用に向けた提言を行った。
49. 開放施設の形態と管理運営実態からみた小学校の学校開放と安全性に関する研究	共	2009年7月	地域施設計画研究, 第27号, pp. 53-60, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 藤原研哉, 横田隆司, 飯田匡 概要: 島根県雲南市と大阪府豊中市の計13小学校を対象として、学校開放と安全対策の現状を明らかにすることで、既存の小学校が安全性を確保しながら適度な学校開放を実現するまでの3つの段階を示した。
50. 地域集合施設における高齢者等の余暇活動と施設利用に関する研究－大阪市天王寺区におけるケーススタディー	共	2009年7月	地域施設計画研究, 第27号, pp. 105-110, (社) 日本建築学会	飯田匡, 根岸佑妃, 横田隆司, 伊丹康二 概要: 大阪市天王寺区内の集会所・老人憩の家2施設を対象として、運営と利用実態を明らかにし、高齢者が憩う場の建築計画上の課題を示した。
51. 中層分譲集合住宅団地における共有地の自主管理の実態からみた住民によるコミュニティ活動の活性化に関する研究	共	2009年11月	住宅系研究報告会論文集, 第4号, pp. 239-246, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡 概要: 築30年以上が経過し、複数の管理組合が自主管理を行っている、泉北ニュータウンの中層分譲集合住宅団地を対象として、共有地の維持管理と住民のコミュニティ活動の実態を明らかにすることで、共有地や集会所を共同で自主管理することの意義を示した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
52. 建築の長寿命化と維持管理に対する設計者と管理者の意識に関する研究	共	2008年7月	地域施設計画研究, 第26号, pp. 15-20, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 村井健治, 横田隆司, 飯田匡 概要: 公共施設の長寿命化に対する設計者の意識と、大阪府豊中市の公共施設の運営者の意識を明らかにし、公共施設の長寿命化を促進するための提言を行った。
53. 公営住宅周辺における地域施設の分布実態と発生要因に関する研究—大阪府営住宅の場合—	共	2007年7月	地域施設計画研究, 第25号, pp. 25-32, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 丸谷明子, 横田隆司, 飯田匡 概要: 一定規模以上の大阪府営住宅団地を対象として、団地周辺の地域施設の分布実態を示し、数量化I類により地域施設の発生要因を明らかにすることで、周辺に地域施設が発生しにくい公営住宅においては団地内施設の検討などが必要であることを示した。
54. 地区センター施設との関係から見たニュータウン内の地域施設の経年変化—ニュータウンにおける街角施設の実態からみた施設混在手法に関する研究—	共	2006年7月	地域施設計画研究, 第24号, pp. 347-352, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 田中美帆, 横田隆司, 吉村英祐, 飯田匡 概要: 神戸電鉄沿線の4ニュータウンを対象として、ニュータウン内の地域施設を立地別に経年変化を明らかにすることで、地区センター施設が、近隣センターや住宅地内の店舗の発生や変化に及ぼす影響を示した。
55. 千里ニュータウンにおける地域施設の利用実態と評価意識からみた地域施設整備の方向性—高齢社会に対応した地域施設の整備に関する研究—	共	2005年6月	日本建築学会計画系論文集, 第592号, pp. 57-64, (社) 日本建築学会	大野拓也, 伊丹康二 概要: 千里ニュータウンを対象として、高齢者による地域施設の利用状況など日常生活行動を明らかにすることで、高齢化の進む千里ニュータウンにおいて住み続けるための地域施設の整備方策を示した。
56. 成熟したニュータウンにおける施設体系の再編成に関する研究—住民の生活ニーズに対応した地域施設のあり方について—	共	2005年3月	住宅総合研究財団研究論文文集, 第31号, pp. 287-298, (財) 住宅総合研究財団	大野拓也, 伊丹康二, 張海燕 概要: 千里ニュータウンの9地区を対象に、地域施設の利用実態と住民の行動特性および住環境に対する意識を明らかにしたうえで、地域施設を段階的に整備した近隣住区論の再評価を行い、9地区の特性に合わせた地域施設再編の提案を行った。
57. ニュータウンにおける住宅地の特性と居住者の意識からみた地域施設の整備課題—千里ニュータウンを対象とした地域施設の再編に関する研究 その2—	共	2003年7月	地域施設計画研究, 第21号, pp. 63-70, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 大野拓也 概要: 千里ニュータウンの住民へのアンケート調査により、日常行動特性と地域施設に対する評価を明らかにし、ニュータウンにおける施設構成の再編に向けた提言を行った。本論文では、ニュータウン内の地区によって日常行動や意識が異なることを示し、各地区の特性に応じた地域施設の整備課題と整備方策を示した。
58. ニュータウンにおける住宅地の特性からみた居住者の生活行動と地域施設の利用実態—千里ニュータウンを対象とした地域施設の再編に関する研究 その1—	共	2003年7月	地域施設計画研究, 第21号, pp. 57-62, (社) 日本建築学会	大野拓也, 伊丹康二 概要: 千里ニュータウンの住民へのアンケート調査により、日常行動特性と地域施設に対する評価を明らかにし、ニュータウンにおける施設構成の再編に向けた提言を行った。本論文では、地域施設の分布と日常行動特性について論じた。
59. 街角施設誘導型ニュータウンにおける街角施設の外部空間構成—ニュータウンにおける街角施設の実態からみた施設混在手法に関する研究—	単	2002年7月	地域施設計画研究, 第20号, pp. 135-142, (社) 日本建築学会	伊丹康二 概要: ニュータウン内の住宅用地において、店舗など住宅以外の用途の施設（街角施設）を導入することによる街並みへの影響を探るため、街角施設の導入施策を採用したニュータウンを対象に、街角施設の外部空間の構成を明らかにし、街角施設導入施策の検証を行った。
60. 兵庫県芦屋市における地区特性別にみた居住者の地域施設の利用実態と住環境の評価構造について—郊外ニュータウンの持続的発展方策に関する基礎的研究（その2）—	共	2002年7月	地域施設計画研究, 第20号, pp. 47-54, (社) 日本建築学会	横田隆司, 柏原士郎, 三好庸隆, 吉村英祐, 飯田匡, 伊丹康二, 川村崇, 小島幸子 概要: 芦屋市を南北3地域に分類し、地域ごとに住民の地域施設利用の実態と住環境への評価意識を明らかにした。また、三田市のニュータウンにおける調査結果と比較することで、ニュータウンにおける施設整備の方向性について考察を加えた。
61. 西神南ニュータウンにおける“街角施設”の導入計画による地域施設混在の実態と住民意識に関する研究	共	2002年5月	日本建築学会計画系論文集, 第555号, pp. 163-170, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 柏原士郎, 吉村英祐, 横田隆司, 阪田弘一, 林史朗 概要: 住宅用地内に店舗等施設（街角施設）の発生を誘導した西神南ニュータウンを対象として、街角施設の発生予測と立地実態を比較することで街角施設導入施策の定量的な評価を行った。さらに、住民の地域施設に対する意識から街角施設導入施策の定性的な評価を行った。
62. 西神南ニュータウンにおける地域施設の立地実態と住民意識に基づく地域施設の供給計画に関する評価—	共	2001年7月	地域施設計画研究, 第19号, pp. 333-340, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 柏原士郎, 吉村英祐, 横田隆司, 阪田弘一, 林史朗 概要: 住宅用地内に店舗等施設（街角施設）の発生を誘導した西神南ニュータウンを対象として、地域施設の立地実態と住民の地域施設に対する意識からその供給計画を評価し、街角施設導入施策の検証を行った。
63. ニュータウンの自然発生施設における外部空間の構成—成熟化に伴うニュータウンの整備手法に関する研究—	共	2000年7月	地域施設計画研究, 第18号, pp. 259-266, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 柏原士郎, 吉村英祐, 横田隆司, 阪田弘一, 吉岡聡司 概要: 千里ニュータウンなど4ニュータウンを対象として、戸建て住宅地内に自然発生した店舗等施設の外部空間構成を明らかにし、業種や建築協定の有無

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
64. 千里ニュータウン, 泉北ニュータウンにおける自然発生施設の分布特性	共	2000年11月	日本建築学会計画系論文集, 第537号, pp. 101-108, (社) 日本建築学会	、前面道路のタイプ別による空間的な特徴を提示した。 伊丹康二, 柏原士郎, 吉村英祐, 横田隆司, 阪田弘一 概要: 千里ニュータウンと泉北ニュータウンの住宅地に自然発生した店舗等施設の分布実態を明らかにし、その発生要因を提示した。
65. 千里・泉北ニュータウンにおける自然発生施設の分布特性に関する比較研究 -成熟化に伴うニュータウンの整備手法に関する研究(その1) -	共	1999年7月	地域施設計画研究, 第17号, pp. 55-62, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 柏原士郎, 吉村英祐, 横田隆司, 阪田弘一 概要: 千里ニュータウンと泉北ニュータウンの住宅地に自然発生した店舗等施設の分布実態を明らかにし、地区センターや近隣センターの施設との補充関係など、その発生要因を示した。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 複合機能を持つ図書館の基本構想策定過程におけるデザイン思考の適用性に関する研究 -武蔵野プレイスの事例から-	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 573-574, (一社) 日本建築学会	七野 司, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田 匡, 伊丹絵美子
2. 民間開発戸建住宅団地における住宅管理段階の物販・工事の現住宅の施工者への発注状況	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築社会システム, pp. 69-70, (一社) 日本建築学会	伊丹絵美子, 横田隆司, 伊丹康二
3. オフィスの共用執務空間における執務者の行為と意識に関する研究 その1-	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 749-750, (一社) 日本建築学会	安平雅史, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹絵美子
4. オフィスの共用執務空間における執務者の行為と意識に関する研究 その2-	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 751-752, (一社) 日本建築学会	伊丹康二, 安平雅史, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹絵美子
5. オフィスの共用執務空間における執務者の行為と意識に関する研究	共	2020年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第60号, p p. 189-192, (一社) 日本建築学会	安平雅史, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹絵美子
6. 神社・寺院を含む地域施設の管理と行事運営の実態に関する研究 -三重県熊野市を対象として-	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 農村計画, pp. 185-186, (一社) 日本建築学会	多田正治, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二
7. 大阪国際空港旅客ターミナルビルの商業エリアにおける利用者の行動特性に関する研究	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 483-484, (一社) 日本建築学会	永山晃平, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二
8. 商業施設に併設するこどものあそび場の利用実態に関する研究 -大阪北部地域を対象として-	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 691-692, (一社) 日本建築学会	梶谷萌里, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二
9. 千里山住宅地における景観の変化と住民のまちづくり活動に関する研究	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 1007-1008, (一社) 日本建築学会	土井海志, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二
10. 健全な高齢者向け福祉施設の平面計画および機能の特徴 -中国・西安市における社区居家養老施設に関する研究 その3-	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 163-164, (一社) 日本建築学会	艾悦西, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二
11. 文化財建築物の商業施設としての活用に関する研究 -大阪府下の事例を対象として-	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築社会システム, pp. 35-36, (一社) 日本建築学会	中山詩歩子, 飯田匡, 横田隆司, 伊丹康二
12. 郊外住宅地の世帯・建物更新と外構部の変化の関係について -大阪府堺市美原区さつき野住宅地を対象にして-	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 都市計画, pp. 171-172, (一社) 日本建築学会	小林史佳, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 伊丹絵美子
13. DMO 法人による歴史・文化施設を活用したまちづくりに関する研究	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 農村計画, pp. 171-172, (一社) 日本建築学会	樋本健司, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡
14. 大学が関与する地域のまちづくり拠点の運営と利用に関する研究 -だんだんテラスとコノミヤテラスを中心として-	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 27-28, (一社) 日本建築学会	門田啓暉, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
15. 大阪国際空港旅客ターミナルビルの商業エリアにおける利用者の行動特性に関する研究	共	2019年6月	日本建築学会 近畿支部 研究報告集, 第59号, p. 241-244, (一社) 日本建築学会	永山晃平, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二
16. 高齢者福祉施設における地域交流スペースを利用した地域交流の取り組み	共	2019年6月	日本建築学会 近畿支部 研究報告集, 第59号, p. 165-168, (一社) 日本建築学会	栗野陽, 飯田匡, 横田隆司, 伊丹康二
17. 郊外住宅地における世帯更新と戸建住宅の変容に関する研究 -大阪府堺市美原区さつき野住宅地を対象として-	共	2019年6月	日本建築学会 近畿支部 研究報告集, 第59号, p. 333-336, (一社) 日本建築学会	小林史佳, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 伊丹絵美子
18. 文化財建築物の商業施設としての活用に関する研究 -大阪府下の事例を対象として-	共	2019年6月	日本建築学会 近畿支部 研究報告集, 第59号, p. 413-416, (一社) 日本建築学会	中山詩歩子, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二
19. 千里山住宅地における景観の変化と住民のまちづくり活動に関する研究	共	2019年6月	日本建築学会 近畿支部 研究報告集, 第59号, p. 101-104, (一社) 日本建築学会	土井海志, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二
20. 伴侶動物の収容と譲渡の実態からみた動物関連施設の建築計画に関する研究 -近畿地方の施設を対象として-	共	2019年6月	日本建築学会 近畿支部 研究報告集, 第59号, p. 245-248, (一社) 日本建築学会	澤田莉沙, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二
21. 水辺空間における流動・滞留行動に関する研究 -道頓堀川「道頓堀リバーウォーク」を対象として-	共	2018年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 547-548, (一社) 日本建築学会	末金優士, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 近年整備された大阪市内の道頓堀川「道頓堀リバーウォーク」の歩行者空間を対象として、人の流動と滞留の行動特性と空間特性の関係を明らかにすることで、水辺空間の建築計画に対する知見を得た。
22. 滞在空間として計画された駅前広場における滞在行動に関する研究 -姫路駅北駅前広場と天理駅前広場を対象として-	共	2018年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 245-246, (一社) 日本建築学会	松本健一郎, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 近年、交通広場とも称された駅前広場を滞在や交流を目的とした広場に再整備する動きが増えている中、姫路駅前広場と天理駅前広場における利用者の行動特性を明らかにし、駅前空間の整備に対する知見を得た。
23. 建築物の改修と「関係人口」に関する研究 -兵庫県美方郡香美町を対象として-	共	2018年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 農村計画, pp. 55-56, (一社) 日本建築学会	越智悠, 飯田匡, 横田隆司, 伊丹康二 概要: 過疎が進む兵庫県香美町において、建築物を住民や移住者の交流または新規ビジネスの場として改修した4事例を対象として、運営と利用実態を明らかにし、「関係人口」の増加の可能性を示した。
24. 民間セクターによるコミュニティスペースの運営と利用者意識に関する研究 -兵庫県尼崎市の7施設を対象として-	共	2018年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 1051-2054, (一社) 日本建築学会	松林巧, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡 概要: 民間セクターが運営する交流や市民活動に利用出来る施設(コミュニティスペース)を対象として、その運営実態とコミュニティスペースの利用者意識を明らかにすることで、コミュニティの醸成に資する場に対する公民の役割分担について知見を得た。
25. 学生の居場所としての講義室の活用に関する研究	共	2018年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 461-462, (一社) 日本建築学会	吉村孝基, 吉岡聡司, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 大阪大学の共通講義棟の講義室を対象として、昼休みの学生利用の実態と講義室の空間的特徴の関係を明らかにし、講義室を学生の居場所とするための運営手法について提言を行った。
26. 高齢者福祉施設における地域交流スペースを利用した地域交流の取り組みの実態	共	2018年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 285-286, (一社) 日本建築学会	栗野陽, 飯田匡, 横田隆司, 伊丹康二 概要: 高齢者福祉施設に設けられる地域交流スペースの運営と利用実態を明らかにし、入居者と地域住民の交流の実態を示すことで、建築計画からみた交流の促進要因を示した。
27. 昼休みにおける学生の居場所形成からみた共通教育棟の講義室に関する研究 -大阪大学を対象として-	共	2018年6月	日本建築学会 近畿支部 研究報告集, 第58号, p. 129-132, (一社) 日本建築学会	吉村孝基, 吉岡聡司, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 大阪大学の共通講義棟の講義室を対象として、昼休みの学生利用の実態と講義室の空間的特徴の関係を明らかにし、講義室を学生の居場所とするための運営手法について提言を行った。
28. 姫路駅北駅前広場と天理駅前広場における滞在行動に関する研究	共	2018年6月	日本建築学会 近畿支部 研究報告集, 第58号, p. 97-100, (一社) 日本建築学会	松本健一郎, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 近年、交通広場とも称された駅前広場を滞在や交流を目的とした広場に再整備する動きが増えている中、姫路駅前広場と天理駅前広場における利用者の行動特性を明らかにし、駅前空間の整備に対する知見を得た。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
29. 水辺空間における流動・滞留行動に関する研究―道頓堀川「道頓堀リバーウォーク」と木津川「トコトコダンダン」を対象として―	共	2018年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第58号, p. 93-96, (一社) 日本建築学会	末金優士, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 近年整備された大阪市内の水辺の歩行者空間や広場空間を対象として、人の流動と滞留の行動特性と空間特性の関係を明らかにすることで、水辺空間の建築計画に対する知見を得た。
30. Plan and management of the assembly facilities in the public housing	共	2018年10月	The 12th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, ISAIA	Koji Itami, Kenji Hazemoto, Takashi Yokota, Tadasu Iida 概要: 公営住宅住民による管理運営が困難になっている公営住宅集会所において、社会福祉協議会などテーマ型コミュニティによる管理運営へ変更した事例をもとに、集会所の役割も含めて見直すことの可能性と課題を示した。
31. Research on the Change in the Shop Configuration in Shopping Streets and Merchants' Consciousness by Removal of the Enclosed Arcade	共	2018年10月	The 12th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, ISAIA	Yongwon Park, Koji Itami, Takashi Yokota 概要: 商店街においてアーケードの老朽化と経済的負担が増加する中、全蓋式アーケードを撤去した大阪府下の商店街を対象として、店舗構成の変化と商店主の意識の変化を明らかにし、アーケード撤去による影響を示した。
32. 社区居宅養老施設の配置実態について―中国・西安市における社区居宅養老施設に関する研究 その1―	共	2017年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 481-482, (一社) 日本建築学会	艾悦西, 飯田匡, 横田隆司, 伊丹康二 概要: 健康な高齢者の余暇活動の場である、中国西安市の社区居宅養老施設20施設を対象として、その施設規模と配置計画を明らかにし、これからの社区居宅養老施設の整備に対して提言を行った。
33. 社区居宅養老施設の利用実態と利用者の意識について―中国・西安市における社区居宅養老施設に関する研究 その2―	共	2017年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 483-484, (一社) 日本建築学会	飯田匡, 艾悦西, 横田隆司, 伊丹康二 概要: 健康な高齢者の余暇活動の場である、中国西安市の社区居宅養老施設20施設を対象として、その利用実態と利用者の意識を明らかにし、これからの社区居宅養老施設の運営に対して提言を行った。
34. 地域住民が運営する公営住宅集会所の配置計画と運営実態に関する研究―豊中市営住宅を対象として―	共	2017年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 473-474, (一社) 日本建築学会	榎本健司, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡 概要: 公営住宅集会所を団地住民と地域住民などが共同で管理運営している大阪府豊中市営住宅を対象として、集会所の配置と運営および利用の実態を明らかにすることで、公営住宅集会所の管理運営主体を、団地住民からテーマ型コミュニティに変更した場合の効果と課題を示した。
35. アニメ作品の舞台探訪において探訪マップが訪問者の行動に与える影響―岐阜県飛騨市の事例―	共	2017年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第57号, p. 201-204, (一社) 日本建築学会	村井博文, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: アニメ作品の舞台になった地域が観光地化している事例が増える中、舞台となった場所だけでなく地域の情報も含めた探訪マップの利用実態と訪問者の行動ルートを明らかにすることで、地域創生への発展可能性を検討した。
36. 地域住民が運営する公営住宅集会所の配置計画と運営実態に関する研究―豊中市営住宅を対象として―	共	2017年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第57号, p. 121-124, (一社) 日本建築学会	榎本健司, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡 概要: 公営住宅集会所を団地住民と地域住民などが共同で管理運営している大阪府豊中市営住宅を対象として、集会所の配置と運営および利用の実態を明らかにすることで、公営住宅集会所の管理運営主体を、団地住民からテーマ型コミュニティに変更した場合の効果と課題を示した。
37. 滞在者の利用行動からみる公共文化ホールにおける余白空間の創出に資する資源に関する研究―ロームシアター京都を対象として―	共	2017年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第57号, p. 205-208, (一社) 日本建築学会	佐藤翔一, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 公演時と非公演時の施設利用率に大きな差がある公共文化ホールに、主だった機能を持たない「余白空間」が計画された「ロームシアター京都」を対象として、その「余白空間」における滞留行動を分析し、そのような滞留行動が創出される物理的、空間的、社会的要因を探った。
38. 複合化あるいは隣接化した公民館の空間構成に関する研究	共	2016年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 119-120, (一社) 日本建築学会	増田湧志, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 全国的に公民館の役割や運営の見直しが進む中、公民館と複合あるいは隣接している公共施設の用途および空間構成を分析することで、公民館の複合化に向けた計画指針を示した。
39. 東日本大震災の復興におけるコミュニティの拠点となる施設の整備過程と運営実態に関する研究―宮城県の9施設を対象に―	共	2016年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 23-24, (一社) 日本建築学会	金子千穂, 横田隆司, 伊丹康二, 飯田匡 概要: 東日本大震災後に建設されたコミュニティ拠点を、住民の発案による施設と第三者の発案による施設に分類し、構想から竣工に至る過程と、現在の運営と利用実態を把握することで、大規模災害後のコミュニティ拠点整備に向けた示唆を得た。
40. 大型商業施設における出入口の形態とテナント構成及びアクセス手段との関係	共	2016年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 353-354, (一社) 日本	澤田莉沙, 飯田匡, 横田隆司, 伊丹康二 概要: 大型商業施設が郊外だけでなく市街地に立地するようになったことで、大型商業施設への交通手

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
41. 大学食堂に隣接するテラス席に関する研究—大阪大学を中心として—	共	2016年8月	建築学会 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 473-474, (一社) 日本建築学会	段が多様化しており、市街地における大型商業施設の計画・設計手法の提示が求められている。そこで、大型商業施設へのアクセス方法と、出入口付近のテナントの配置、およびそのテナントの業種の関係を分析することで、市街地に立地する大型商業施設の建築計画的知見を示した。 門田啓暉, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 吉岡聡司 概要: 大阪大学におけるテラス席を有する食堂を対象として、食堂利用者の行動特性を明らかにし、テラス席を有する大学食堂の建築計画的知見を得た。
42. まちづくりにおける空き家の活用手法に関する研究—広島県内4市域を中心として—	共	2016年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2, pp. 159-160, (一社) 日本建築学会	小刀夏未, 横田隆司, 伊丹康二, 飯田匡 概要: 広島県内の4市域における空き家活用事業を対象として、事業推進主体の事業内容や多様な主体との連携およびその変化を明らかにすることで、空き家活用からまちづくりへ発展するための要因を示した。
43. 複合化あるいは隣接化した公民館の空間構成に関する研究	共	2016年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第56号, p. 89-92, (一社) 日本建築学会	増田湧志, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 全国的に公民館の役割や運営の見直しが進む中、公民館と複合あるいは隣接している公共施設の用途および空間構成を分析することで、公民館の複合化に向けた計画指針を示した。
44. 東日本大震災の復興におけるコミュニティの拠点となる施設の整備過程と運営実態に関する研究	共	2016年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第56号, p. 93-96, (一社) 日本建築学会	金子千穂, 横田隆司, 伊丹康二, 飯田匡 概要: 東日本大震災後に建設されたコミュニティ拠点を、住民の発案による施設と第三者の発案による施設に分類し、構想から竣工に至る過程と、現在の運営と利用実態を把握することで、大規模災害後のコミュニティ拠点整備に向けた示唆を得た。
45. 大学食堂に隣接するテラス席に関する研究—大阪大学を中心として—	共	2016年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第56号, p. 93-96, (一社) 日本建築学会	門田啓暉, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 吉岡聡司 概要: 大阪大学におけるテラス席を有する食堂を対象として、食堂利用者の行動特性を明らかにし、テラス席を有する大学食堂の建築計画的知見を得た。
46. 競技場における避難安全のバリアフリー	共	2016年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第56号, p. 73-76, (一社) 日本建築学会	村井博文, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 関西の7スタジアムを対象として、建築図面と管理者へのヒアリング調査から、障害者の平常時の利用状況を明らかにしたうえで、非常時に安全を確保する避難行動について考察を行った。
47. 大型商業施設の出入口付近のテナント構成とアクセス手段の関係	共	2016年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第56号, p. 105-108, (一社) 日本建築学会	澤田莉沙, 飯田匡, 横田隆司, 伊丹康二 概要: 大型商業施設が郊外だけでなく市街地に立地するようになったことで、大型商業施設への交通手段が多様化しており、市街地における大型商業施設の計画・設計手法の提示が求められている。そこで、大型商業施設へのアクセス方法と、出入口付近のテナントの配置、およびそのテナントの業種の関係を分析することで、市街地に立地する大型商業施設の建築計画的知見を示した。
48. 商業に着目した鉄道駅を中心とする街づくりに関する研究—西宮北口駅と吉祥寺駅を事例として—	共	2016年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第56号, p. 109-112, (一社) 日本建築学会	山田章人, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 西宮北口駅と吉祥寺駅の半径400m圏内における各種地域施設の分布や業種別施設数を明らかにすることで、大型商業施設と小規模店舗の共存の意義について考察を行った。
49. 公共建築の設計段階における住民参加の実態と可能性に関する研究	共	2015年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 901-902, (一社) 日本建築学会	佐藤翔一, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 公共建築設計における住民参加の尺度を既往研究をもとに作成したうえで、近年の公共建築の設計段階における住民参加の実態を、議事録や電話によるヒアリング調査により把握、分析した結果、実質的な住民参加は進んでいないことを明らかにした。
50. 南港ポートタウンにおける地域コミュニティに資する施設の利用実態に関する研究	共	2015年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第55号, p. 245-248, (一社) 日本建築学会	赤尾大樹, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 南港ポートタウンを対象として、地域コミュニティに資する施設として集会施設だけでなく学校や農園も含めた地域施設全体の利用実態を明らかにすることで、今後のコミュニティ活性化に向けた地域施設の柔軟な使いこなしについて提言を行った。
51. 公共建築の設計段階における住民参加の実態と可能性に関する研究	共	2015年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第55号, p. 177-180, (一社) 日本建築学会	佐藤翔一, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 公共建築設計における住民参加の尺度を既往研究をもとに作成したうえで、近年の公共建築の設計段階における住民参加の実態を、議事録や電話によるヒアリング調査により把握、分析した結果、実

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
52. 大学キャンパス内の屋外共用空間における単独利用に関する研究－大阪大学豊中キャンパスを事例として－	共	2015年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第55号, p. 113-116, (一社) 日本建築学会	質的な住民参加は進んでいないことを明らかにした。 木村優, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 吉岡聡司 概要: 大阪大学キャンパスの屋外空間を単独で利用している学生の、その場所に対する印象や感じ方をアンケート調査により明らかにし、キャンパス内の居場所形成に向けた屋外空間の計画手法について知見を得た。
53. ニュータウンの地区センターにおける生活関連施設の分布実態と利用特性に関する研究－千里ニュータウン・泉北ニュータウンを対象として－	共	2015年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第55号, p. 1-4, (一社) 日本建築学会	栗山和也, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 鉄道駅周辺に各種地域施設が集約して計画されたニュータウンの地区センターを対象として、地域施設の分布実態と来街者による駅前施設の利用実態の関係を明らかにし、地区センターごとに役割と機能を定めることの意義を提示した。
54. 大学が地域連携を行う目的の推移と近畿圏における大学施設の地域開放の実態	共	2014年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1, pp. 153-156, (一社) 日本建築学会	吉岡聡司, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 大学の地域連携に関する国内の動向を新聞記事から概観したうえで、近畿圏の大学における施設の地域開放の実態と、運営者の開放に対する意識を明らかにした。
55. 運営実態からみた障害者福祉施設内のカフェの計画手法に関する研究	共	2014年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第54号, p. 113-116, (一社) 日本建築学会	永井麻美, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 障害者福祉施設内に障害者が働く場としてカフェを運営する事例が増える中、カフェの平面計画や設えなどのハード面と運営や利用などのソフト面の両面から分析し、障害者福祉施設内カフェの建築計画的知見を得た。
56. 大学が地域連携を行う目的の推移と近畿圏における大学施設の地域開放の実態	共	2014年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第54号, p. 121-124, (一社) 日本建築学会	吉岡聡司, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 大学の地域連携に関する国内の動向を新聞記事から概観したうえで、近畿圏の大学における施設の地域開放の実態と、運営者の開放に対する意識を明らかにした。
57. 空港施設の旅客ターミナル内における利用者の行動特性に関する研究－関西圏の空港を中心として－	共	2014年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第54号, p. 217-220, (一社) 日本建築学会	山田章人, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 商業施設を増やし、収益性を上げることが求められるようになった空港に着目し、全国の14空港における商業施設の配置計画を分析したうえで、神戸空港と大阪国際空港を対象に、休憩スペースと商業施設付近の利用者の行動特性を明らかにした。
58. 大学食堂内における座席選択と利用者の行動に関する研究－関西の5大学を事例として－	共	2014年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第54号, p. 221-224, (一社) 日本建築学会	中野峻太郎, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 吉岡聡司 概要: 大学生の孤食が増える中、関西5大学の大学食堂を対象として、食堂の運営者の意識と利用者の座席選択および行動特性を明らかにすることで、大学食堂の建築計画的知見を得た。
59. プライダル施設へと用途変更された建築物の平面計画に関する研究	共	2014年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第54号, p. 665-668, (一社) 日本建築学会	江口圭介, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: プライダル施設へ用途変更された歴史的建築物を対象として、改修内容や諸室の配置計画を分析し、用途転用の中でもプライダル施設に特化した改修の特徴を明らかにした。
60. 南海高野線沿線の郊外住宅地とその周辺地域における集会所の分布と立地特性に関する研究	共	2014年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第54号, p. 125-128, (一社) 日本建築学会	坂下榮里香, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡 概要: 南海高野線沿線の郊外住宅地とその周辺地域における集会所の分布と立地条件を分析すると同時に、公民館の利用状況を明らかにすることで、郊外住宅地内外の公民館や集会所を相互に利用し、住民の交流や連携を図る意義を示した。
61. The Relationship between Attitudes toward Living Environment Amenities, Social Capital, and Satisfaction with the Living Environment	共	2014年10月	The Asian Conference on the Social Sciences 2014 ? Official Conference Proceedings, pp. 451-464, ACSS	Emiko Itami, Takashi Yokota, Koji Itami, Kozue Sano, Tadasu Iida 概要: 高松市郊外部の住宅地と既存集落の住民を対象にアンケート調査を行い、住民の住環境評価の意識構造を明らかにした上で、その意識構造に対するソーシャル・キャピタルの影響を示した。
62. The Adaptability of Religious Facilities for Extraordinary Events and their Role in an Emergency	共	2014年10月	The Asian Conference on the Social Sciences 2014 ? Official Conference Proceedings, pp. 473-484, ACSS	Koji Itami, Takashi Yokota, Tadasu Iida, Ryuji Mugitani 概要: 東日本大震災直後に避難所として利用された宗教施設の運営実態を明らかにし、その有用性を示した。また、天理市内にある天理教関連施設の祭りなど非日常時の利用実態をもとに、天理教関連施設が有する災害など非常時の対応力を考察した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
63. Research on Relationship Between the Space Composition and Stay Activity of Pedestrians at Underground Shopping Areas in Japan	共	2014年10月	The proceedings of the 10th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, pp.252-256, IS AIA	YU Wei, Yokota Takashi, Iida Tadasu, Itami Koji 概要：大阪梅田地下街と富国生命ビル地下空間の休憩スペースの空間特性を把握した上で、地下空間における滞在行動特性を明らかにし、今後の地下空間の豊かな空間づくりに向けた提言を行った。
64. 美術館の企画展示における利用者の鑑賞行動に関する研究 その2—展示形式、作品レイアウトによる鑑賞行動への影響について—	共	2013年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp.273-274, (一社)日本建築学会	飯田匡, 中村津美紀, 横田隆司, 伊丹康二 概要：美術館の企画展示において、来館者の展示室における行動特性を把握することで、展示室の空間構成や展示作品のレイアウトが鑑賞行動に及ぼす影響を明らかにした。
65. 美術館の企画展示における利用者の鑑賞行動に関する研究 その1—追跡調査から得た観察結果をもとに—	共	2013年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp.271-272, (一社)日本建築学会	中村津美紀, 飯田匡, 横田隆司, 伊丹康二 概要：美術館の企画展示において、来館者の展示室における行動特性を把握することで、展示室における行動特性を明らかにした。
66. 大学図書館における諸室の利用実態に関する研究 —ラーニング・コモンズに着目して—	共	2013年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp.231-232, (一社)日本建築学会	栗山和也, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要：大学図書館への設置が増加しているラーニングコモンズを対象として、その利用者の行動特性を明らかにし、ラーニングコモンズを含む大学図書館の建築計画的知見を得た。
67. 韓国大邱広域市における集合住宅団地内の屋内共用施設の運営と利用者意識	共	2013年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp.1449-1450, (一社)日本建築学会	李修珍, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要：韓国の大邱市にある集合住宅団地38団地の共用施設を対象として、施設の管理運営や利用実態、住民の住意識を明らかにすることで、共用施設の有効活用に向けた方策を検討した。
68. 仮設住宅団地の生活利便性の現状と影響要因—気仙沼市の10 団地を対象として—	共	2013年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp.1383-1384, (一社)日本建築学会	伊丹絵美子, 伊丹康二, 櫻井壯, 横田隆司, 飯田匡 概要：東日本大震災後の気仙沼市における仮設住宅団地10団地を対象として、住民へのヒアリング調査を行い、生活利便性とコミュニティ形成の現状と、それらへの影響要因を提示した。
69. バリアフリー地域空間構築のための事例研究—ソウル市の住居地域の事例を通じて—	共	2013年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp.827-828, (一社)日本建築学会	柳尚吾, 姜秉根, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要：障がい者などへの様々な配慮を義務付ける法律が整備されつつある韓国において、道路のバリアフリーと休憩スペースの整備実態を明らかにし、道路と休憩スペースの適切な整備に向けた計画指針を示した。
70. The Evaluation of Pedestrian Area through Space Syntax Theory A Case Study of Ningbo Tianyi Square in China	共	2013年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1, pp.113-114, (一社)日本建築学会	俞維, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要：中国の寧波市にある天一広場を対象として、広場を取り囲む施設と来訪者の行動特性の関係についてスペース・シンタックス理論を用いた分析を試みることで、面的な広がりのある空間分析におけるスペース・シンタックス理論の適用性について検討を行った。
71. ホテルにおけるロビー空間の空間構成と隣接施設に関する研究	共	2013年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp.87-88, (一社)日本建築学会	藤川結華, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要：観光立国を目指す日本において、ホテルは観光客を迎える重要な施設であると捉え、ホテルのロビー空間に対する印象評価と、その印象評価に影響を与える空間的な要因を明らかにした。
72. 車いす利用者を含む群集の挙動に関する研究—通勤時の対向流を中心に—	共	2013年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第53号, p.13-16, (一社)日本建築学会	西森匠, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 柳尚吾 概要：大阪駅前交差点における行動観察調査とモデル的に行った群集歩行実験を通して、車いす利用者の通勤群集における挙動の特性を明らかにした。
73. ホテルのロビー空間の構成およびその印象評価に関する研究	共	2013年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第53号, p.89-92, (一社)日本建築学会	藤川結華, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要：観光立国を目指す日本において、ホテルは観光客を迎える重要な施設であると捉え、ホテルのロビー空間に対する印象評価と、その印象評価に影響を与える空間的な要因を明らかにした。
74. 美術館の企画展示における利用者の鑑賞行動に関する研究	共	2013年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第53号, p.77-80, (一社)日本建築学会	中村津美紀, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要：美術館の企画展示において、来館者の展示室における行動特性を把握したうえで、展示室の空間構成や展示作品のレイアウトが鑑賞行動に及ぼす影響を明らかにした。
75. 大学図書館における諸室の建築計画と利用実態に関する研究—ラーニング・コモンズに着目して—	共	2013年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第53号, p.93-96, (一社)日本建築学会	栗山和也, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要：大学図書館への設置が増加しているラーニングコモンズを対象として、その利用者の行動特性を明らかにし、ラーニングコモンズを含む大学図書館の建築計画的知見を得た。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
76. 韓国大邱広域市における集合住宅団地内の共用施設の設置基準と設置実態	共	2012年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 1159-1160, (一社) 日本建築学会	李修珍, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 韓国の大邱市の集合住宅団地における共用施設の設置基準を整理したうえで、実際に整備された共用施設の規模、配置、空間特性を分析することで、設置実態を明らかにした。
77. バリアフリー生活圏構築のための事例研究—障害がある人の外部生活に関するインタビューを通じて—	共	2012年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 963-964, (一社) 日本建築学会	柳尚吾, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 豊中市に居住する身体障害者を対象として、徒歩や車椅子などの自立歩行によって利用する施設の状況を分析することで、バリアフリーの地域生活圏構築に向けた知見を得た。
78. 東日本大震災における子どもの作文・手記からみた地震発生後の避難行動に関する研究	共	2012年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 903-904, (一社) 日本建築学会	宗田明大, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 東日本大震災時の子どもの避難行動を、新聞記事や手記などをもとに分析し、学校の防災訓練や周辺の大人の行動に左右されていることを明らかにした。
79. 建築関係者と非建築関係者の印象評価のずれに関する研究—博物館の内部空間を対象として—	共	2012年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 755-756, (一社) 日本建築学会	西智哉, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 建築を専門に学んでいる者とそうでない者の、建築に対する印象評価の差を明らかにすることで、建築関係者だけでなく一般人にも理解されやすい建築設計に向けた示唆を得た。
80. 個人ミュージアムにおける来館者数の変動特性と展示空間に対する運営者の意識に関する研究	共	2012年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 301-302, (一社) 日本建築学会	矢野晃一郎, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 展示内容が固定化され、継続的な運営が難しい施設名称に個人名を含む博物館(個人ミュージアム)を対象として、その設立経緯や来館者数の変化、運営者の意識などから、個人ミュージアムの現状を明らかにした。
81. 公共施設における他団体との連携の実態とそれに伴う空間の一時利用に関する研究	共	2012年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第52号, p. 117-120, (一社) 日本建築学会	曾我航, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 公共施設の柔軟な利用を促進するための方法として、企業やNPO法人など様々な団体による公共施設の一時利用に着目し、公共施設における様々な団体との連携の実態と、団体による公共施設内空間の一時利用の実態を明らかにした。
82. 利き足と階段昇降時に踏み出す足の関係に関する研究	共	2012年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第52号, p. 133-136, (一社) 日本建築学会	中塚貴志, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 「人は利き足から階段の昇降を始めるため、階段は奇数段であることが登りやすく、好ましい」という言説に対し、階段昇降時に踏み出す足の左右には有意差は認められないことを明らかにし、本言説を棄却した。
83. 肢体不自由児通所施設の施設利用に関する研究—兵庫県N市児童福祉施設を対象として—	共	2012年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第52号, p. 221-224, (一社) 日本建築学会	飯田匡, 横田隆司, 伊丹康二, 吉岡聡司, 出口加奈子 概要: 障害者総合福祉法の制定を目指すなど障害福祉政策が大きな転換期を迎える中、老朽化した肢体不自由児通所施設を対象に、利用者の要望や利用実態を明らかにし、再整備に向けた計画指針を示した。
84. 回遊型商業地区における街路の空間構成と来街者特性に関する研究—大阪市西区堀江を対象として—	共	2012年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第52号, p. 557-560, (一社) 日本建築学会	勝田裕子, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 回遊型商業地域である大阪市西区の堀江地区を対象として、店舗分布と業種構成を明らかにしたうえで、各道路の滞留人口から群集密度を算出し、店舗構成と群集密度の関連性を示した。
85. オフィス街の屋外公共空間における滞留行動に関する研究—西梅田地区を中心として—	共	2012年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第52号, p. 313-316, (一社) 日本建築学会	小橋明奈, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 大阪梅田のオフィス街の屋外公共空間を対象として、物的環境と利用実態を把握したうえで、数値化I類により滞留行動の空間的要因を明らかにし、今後のオフィス街における公共空間の計画指針を示した。
86. ビジネス地区における地下鉄駅直結ビル低層部の公共空間に関する研究—大阪市船場地区を対象として—	共	2012年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第52号, p. 309-312, (一社) 日本建築学会	山田佑亮, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 地下鉄駅に地下空間で直結するオフィスビルなどが増加する中、大阪市のビジネス街における地下鉄駅直結ビルの通路空間と公共空間の物的環境、公共空間での滞在行動および通路空間の印象評価を明らかにすることで、地下鉄駅直結ビル低層部の建築計画に対する知見を示した。
87. 建築関係者と非建築関係者の印象評価のずれに関する研究—博物館の内部空間を対象として—	共	2012年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第52号, p. 249-252, (一社) 日	西智哉, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 建築を専門に学んでいる者とそうでない者の、建築に対する印象評価の差を明らかにすることで

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
88. 東日本大震災における子どもの作文・手記からみた地震発生後の避難行動に関する研究	共	2012年6月	本建築学会 日本建築学会 近畿支部 研究報告集, 第52号, p. 69-72, (一社) 日本建築学会	、建築関係者だけでなく一般人にも理解されやすい建築設計に向けた示唆を得た。 宗田明大, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 東日本大震災時の子どもの避難行動を、新聞記事や手記などをもとに分析し、学校の防災訓練や周辺の大人の行動に左右されていることを明らかにした。
89. 公的集合住宅団地の建て替えによる団地内施設の変化—公的集合住宅団地の建て替えによる団地内施設の変化と外部空間の利用行動 (その1) —	共	2011年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2, pp. 161-162, (社) 日本建築学会	李修珍, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 麥谷隆之 概要: UR団地の建て替えによる、団地内の商業施設やサービス施設の配置と施設数および業種の変化を明らかにし、業種に偏りが発生しているほか、施設数が減少していることを確認した。
90. 商業施設利用者の休憩スペースにおける座席占有行動について—関西圏の商業施設における通路空間の構造と休憩スペースでの座席占有行動に関する研究 その2—	共	2011年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 427-428, (社) 日本建築学会	出口加奈子, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 柳尚吾 概要: 長時間滞在型あるいは多機能化によって大規模商業施設に求められるようになった休憩スペースの計画指針を得るため、休憩スペースの空間的特性と利用者の座席占有行動の関係を明らかにした。
91. 商業施設の通路タイプと休憩スペースの構造について—関西圏の商業施設における通路空間の構造と休憩スペースでの座席占有行動に関する研究 その1—	共	2011年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 425-426, (社) 日本建築学会	柳尚吾, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 出口加奈子 概要: 長時間滞在型あるいは多機能化によって大規模商業施設に求められるようになった休憩スペースの計画指針を得るため、通路タイプの分類を行ったうえで、通路に設置された休憩スペースの空間的特性を明らかにした。
92. 大阪府豊中市における公共施設の用途変更の実態と施設運営上の課題に関する研究	共	2011年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 37-40, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡, 川合美紗子 概要: 豊中市における公共施設の用途変更の履歴を整理し、数多くの用途転用を行っていることを明らかにした。また、用途変更を行った9事例の運営者へのヒアリング調査から、利用上の課題を示した。
93. 千里ニュータウンの近隣センターが持つ街の中心性に関する考察	共	2011年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 309-310, (社) 日本建築学会	南未穂, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 千里ニュータウンの近隣センターが、計画当初のような街の中心性を維持しているのかという問題意識のもと、住民の生活行動や住意識をアンケート調査により明らかにし、近隣センターの役割を再定義した。
94. 団地内施設周辺の外部空間における行動調査—公的集合住宅団地の建て替えによる団地内施設の変化と外部空間の利用行動 (その2) —	共	2011年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2, pp. 163-164, (社) 日本建築学会	麥谷隆之, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二, 李修珍 概要: 建て替え後のUR団地において、団地内施設周辺における住民の行動を調査し、団地内施設の業種や、ベンチや灰皿などの設えによって多様な行動が誘発されていることを確認した。
95. 居住者の住環境評価に対するソーシャル・キャピタルの影響—地方都市郊外における既存集落と新興住宅地を対象にして—	共	2011年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1, pp. 1503-1504, (社) 日本建築学会	伊丹絵美子, 横田隆司, 伊丹康二, 佐野こずえ, 飯田匡 概要: 高松市郊外部の住宅地と既存集落の住民を対象にアンケート調査を行い、住民の住環境評価の意識構造を明らかにした上で、その意識構造に対するソーシャル・キャピタルの影響を示した。
96. リフォーム時期の違いに着目した戸建住宅のリフォームに関する研究—リフォームを手がける企業へのヒアリング調査を通じて—	共	2011年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2, pp. 211-212, (社) 日本建築学会	上田規弘, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 住宅関連雑誌に掲載されているリフォーム済みの戸建て住宅を対象として、中古住宅の購入と同時にリフォームを行った場合と住みながらリフォームを行った場合の、リフォームの内容の違いやプラン変更の傾向を示した。
97. A Study on the Change of Meeting Facilities with the Rebuilding of Public Housing -A Case Study of Public Housing in Osaka, Japan -	共	2011年7月	(会議名) The 3rd World Planning Schools Congress, Perth (WA)	Koji Itami, Takashi Yokota, Tadasu Iida, Wataru Soga 概要: 建て替えを行った大阪府下の公的集合住宅を対象として、団地内集会所の配置や規模、機能などのハード面と管理運営や利用などのソフト面の両面について建て替え前後の比較を行い、その変容実態を明らかにした。
98. 千里ニュータウンの近隣センターが持つ街の中心性に関する考察	共	2011年6月	日本建築学会 近畿支部 研究報告集, 第51号, p. 237-240, (社) 日本建築学会	南未穂, 伊丹康二, 三好庸隆, 柴田明宏 概要: 千里ニュータウンの近隣センターが、計画当初のような街の中心性を維持しているのかという問題意識のもと、住民の生活行動や住意識をアンケート調査により明らかにし、近隣センターの役割を再定義した。
99. 事例からみた木造建築物のコンバージョンの実態に関する研究	共	2010年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 549-550, (社) 日本建	小橋明奈, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 用途転用した木造建築物100事例をもとに、用途転用前後の用途と用途転用の促進要因を示した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
100. 大阪市西区新町における店舗分布の変化とファサードの特性に関する研究	共	2010年9月	築学会 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 791-792, (社) 日本建築学会	さらに内3事例を対象に、用途転用の動機や運営管理の実態をヒアリング調査により明らかにし、木造建築物の用途転用促進に向けた課題を示した。 勝田裕子, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: カフェや雑貨店などの店舗が増加しつつある大阪市西区の新町地区を対象として、業種ごとの店舗分布の変遷を示したほか、店舗のファサードの構成と傾向を明らかにした。
101. 周辺施設が少ない公営住宅における住民の日常生活行動に関する研究—大阪府営住宅を対象に—	共	2010年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 417-418, (社) 日本建築学会	山上裕之, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 大阪府営住宅の中でも、団地周辺に地域施設が少ない2団地を対象として、住民の日常生活行動と住環境への意識についてヒアリング調査を行い、日常生活に必要な店舗などが周辺地域に発生しがたい公営住宅団地においては団地内施設の整備あるいはその代替サービスの提供が求められることを示した。
102. 高齢者を対象とした地域福祉サービスの実態に関する研究—吹田市・豊中市を事例として—	共	2010年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 123-124, (社) 日本建築学会	出口加奈子, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 2006年に介護保険法の改正が行われた後の、高齢者福祉サービスの提供実態を明らかにするため、吹田市と豊中市を対象として行政による高齢者福祉事業を整理したうえで、高齢者福祉施設におけるサービス種別ごとの分布を示し、福祉サービスの事業展開に向けた知見を得た。
103. 混雑時における視認傾向に着目した観光地等の歩行空間の快適性評価	共	2010年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 799-800, (社) 日本建築学会	雑古和矢, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 混雑している歩行空間において、歩行者の視認特性から歩行の快適性に影響を与える物理的要因と心理的要因を分析することで、今後の歩行空間における環境デザインの示唆を得た。
104. 高架化前後の鉄道駅周辺における商業施設の変化に関する研究—阪急宝塚本線を対象として—	共	2010年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1, pp. 309-310, (社) 日本建築学会	山田佑亮, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 阪急宝塚線を対象として、鉄道高架化の前後における駅周辺商業施設の変化を明らかにし、今後の鉄道高架化が周辺施設に及ぼす影響予測のための基礎的情報を示した。
105. 高齢化が進む大阪都市圏の郊外住宅地における住民の住環境に対する評価と意識	共	2010年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2, pp. 65-66, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹絵美子, 佐野こずえ 概要: 南海高野線沿線と能勢電鉄沿線の4郊外住宅地を対象に住民へのアンケート調査を実施し、住民の住環境に対する評価と意識について概観し、住環境満足度と日常生活満足度の差があることなどを指摘した。
106. 公的集合住宅団地の建て替えによる団地内集会所の空間と利用の変化	共	2010年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2, pp. 117-118, (社) 日本建築学会	曾我航, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 建て替えを行った大阪府下の公的集合住宅を対象として、団地内集会所の配置や規模、機能などのハード面と管理運営や利用などのソフト面の両面について建て替え前後の比較を行い、その変容実態を明らかにした。
107. 評価グリッド法によるミニ開発の外部空間の評価構造	共	2010年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2, pp. 175-176, (社) 日本建築学会	柏木裕貴, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: ミニ開発による住宅群の外部空間に対する評価構造を、評価グリッド法を用いて明らかにし、ミニ開発の計画手法に対する知見を得た。
108. 周辺施設が少ない大阪府営住宅における住民の生活行動に関する研究	共	2010年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第50号, p. 29-32, (社) 日本建築学会	山上裕之, 伊丹康二 概要: 大阪府営住宅の中でも、団地周辺に地域施設が少ない2団地を対象として、住民の日常生活行動と住環境への意識についてヒアリング調査を行い、日常生活に必要な店舗などが周辺地域に発生しがたい公営住宅団地においては団地内施設の整備あるいはその代替サービスの提供が求められることを示した。
109. 公的集合住宅の建て替え前後における団地内集会所の変化に関する研究	共	2010年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第50号, p. 181-184, (社) 日本建築学会	曾我航, 伊丹康二 概要: 建て替えを行った大阪府下の公的集合住宅を対象として、団地内集会所の配置や規模、機能などのハード面と管理運営や利用などのソフト面の両面について建て替え前後の比較を行い、その変容実態を明らかにした。
110. 高架化前後の鉄道駅周辺における商業施設の変化に関する研究—阪	共	2010年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第50号, p	山田佑亮, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 阪急宝塚線を対象として、鉄道高架化の前後

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
急宝塚本線を対象として－			p. 445-448, (社) 日本建築学会	における駅周辺商業施設の変化を明らかにし、今後の鉄道高架化が周辺施設に及ぼす影響予測のための基礎的情報を示した。
111. 環境共生型集合住宅団地におけるベランダ緑化状況の経年変化に関する研究－大阪府宮河内長野木戸住宅を対象に－	共	2009年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 111-112, (社) 日本建築学会	上田規弘, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 環境共生住宅として建設された大阪府宮河内長野木戸住宅を対象として、ベランダの緑化状況の経年変化を明らかにし、環境共生住宅においてベランダの緑化を維持促進する設計手法を提案した。
112. 集会室を有する複合公共施設のプランタイプに関する研究	共	2009年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 477-478, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 谷口誠規 概要: 建築関連雑誌から集会室を有する公共施設を17事例収集し、その公共施設の用途や集会室の空間構成の傾向を示したうえで、内18施設における利用条件と利用実態を明らかにし、公共施設の集会機能再編に向けた複合公共施設の活用方法を探った。
113. The Landmark Trustにおけるコンバージョン事例に関する考察	共	2009年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 465-466, (社) 日本建築学会	川合美紗子, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 英国において歴史的建築物や景観の保護を目的として設立されたThe Landmark Trustがこれまでに再生を手がけてきた166事例を対象として、平面計画の空間構成をもとに分類したうえで、用途との関係を示し、用途転用の傾向を示した。
114. いま、京都にみちを通すということ	共	2009年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 22-23, (社) 日本建築学会	矢野晃一郎, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二 概要: 平安京の名残で120m角の街区が残る地域を対象として、歴史性を残しながらも街区内に新しい路地を通すことを提案した。
115. 集会機能を持つ施設の分布と市民による施設の利用実態－大阪府豊中市を対象として－	共	2008年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 21-24, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡, 佐野こずえ 概要: 大阪府豊中市における集会機能を有する公共施設を整理し、住民へのアンケート調査からそれら施設の認知度や使い分けの実態、さらには集会施設に求める機能を明らかにし、今後の公共施設再編に向けた指針を得た。
116. ニュータウンの住宅地における地域施設の分布実態と誘導施策の有効性に関する研究－神戸市西部のNTを対象に－	共	2008年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第48号, p. 277-280, (社) 日本建築学会	澤田碧, 横田隆司, 伊丹康二 概要: 神戸市西部の4ニュータウンを対象として、地区計画制度と建築協定が住宅地内の店舗発生に及ぼす影響を明らかにし、街角施設導入施策の検証を行った。
117. 地区計画区域における地域施設の発生と分布特性－能勢電鉄沿線のニュータウンを対象として－	共	2007年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 377-378, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 小松春樹, 横田隆司, 飯田匡 概要: 能勢電鉄沿線の5ニュータウンを対象に、戸建て住宅地における店舗などの施設発生状況を明らかにし、戸建て住宅地の地区計画と用途地域による影響を考察した。
118. 千里ニュータウンにおける地域施設の利用実態からみた居住者の徒歩圏域について－高齢社会に対応した地域施設の整備に関する研究－	共	2004年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 241-242, (社) 日本建築学会	大野拓也, 伊丹康二 概要: 千里ニュータウンにおいて住民へのアンケート調査を行い、住民の行動圏をもとに、年齢階層別に日常の行動距離を分析し、高齢期を迎えた後も住み慣れたニュータウンで住み続けられるための施設整備課題を示した。
119. 地域施設の利用実態からみた居住者の徒歩圏と住宅地の整備課題について	共	2004年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第44号, p. 265-268, (社) 日本建築学会	大野拓也, 伊丹康二 概要: 千里ニュータウンにおける住民の行動圏やニュータウンでの定住意識をもとに、高齢期を迎えた後も住み慣れたニュータウンで住み続けられるための施設整備課題を示した。
120. 千里ニュータウンにおける住宅地の特性からみた地域施設の利用実態について－ニュータウンにおける地域施設の再編に関する研究 その1－	共	2003年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 239-240, (社) 日本建築学会	大野拓也, 伊丹康二 概要: 千里ニュータウンにおいて住民へのアンケート調査を行い、地理的特性に応じた住民の施設利用実態を明らかにし、地域施設の整備に向けた知見を得た。
121. 千里ニュータウンにおける地域施設の整備に対する住民の要望－ニュータウンにおける地域施設の再編に関する研究 その3－	共	2003年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 243-244, (社) 日本建築学会	張海燕, 伊丹康二, 大野拓也 概要: 千里ニュータウンにおいて住民へのアンケート調査を行い、住民の施設に対する意識を明らかにし、地域施設の整備に向けた知見を得た。
122. 千里ニュータウンにおける住宅地の特性からみた地域施設の利用先と不満について－ニュータウンにおける地域施設の再編に関する研究 その2－	共	2003年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 241-242, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 大野拓也 概要: 千里ニュータウンにおいて住民へのアンケート調査を行い、地理的特性に応じた住民の住環境に対する意識や行動特性を明らかにし、地域施設の整備に向けた知見を得た。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
123. ニュータウンにおける'誘導'による街角施設の外部空間構成	単	2002年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 865-866, (社) 日本建築学会	伊丹康二 概要: 戸建て住宅地内に店舗の発生を誘導する施策を採用した2ニュータウンを含む計7ニュータウンの戸建て住宅地に自然発生した店舗の建物構成や外部空間の構成を明らかにすることで、「誘致」「誘導」「自然発生」の3手法別にみた店舗併用住宅の外観上の特徴を示し、住宅地内への店舗導入施策による景観上の問題点や配慮すべき点を指摘した。
124. 街角施設誘導型ニュータウンにおける街角施設の立地実態についてー住宅地への地域施設の混在手法に関する研究(その1)ー	共	2001年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 487-488, (社) 日本建築学会	横田隆司, 柏原士郎, 吉村英祐, 阪田弘一, 伊丹康二 概要: 住宅地内に立地する店舗など(街角施設)を計画的に導入した西神南ニュータウンとウッディタウンを対象として、街角施設の立地実態から、街角施設の導入計画に対する評価を行った。
125. 街角施設誘導型ニュータウンにおける街角施設に対する住民意識についてー住宅地への地域施設の混在手法に関する研究(その2)ー	共	2001年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 489-490, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 柏原士郎, 吉村英祐, 横田隆司, 阪田弘一 概要: 住宅地内に立地する店舗など(街角施設)を計画的に導入した西神南ニュータウンとウッディタウンを対象として、街角施設に対する住民の意識調査を行い、街角施設および街角施設の導入計画に対する評価を行った。
126. 西神南ニュータウンとウッディタウンにおける街角施設の立地実態についてー住宅地への地域施設の混在手法に関する研究 その1ー	共	2001年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第41号, p. 73-76, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 柏原士郎, 三好庸隆, 吉村英祐, 林 史朗, 横田隆司, 倉橋尉仁 概要: 住宅地内に立地する店舗など(街角施設)を計画的に導入した西神南ニュータウンとウッディタウンを対象として、街角施設の立地実態から、街角施設の導入計画に対する評価を行った。
127. 西神南ニュータウンとウッディタウンにおける街角施設に対する住民意識についてー住宅地への地域施設の混在手法に関する研究 その2ー	共	2001年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第41号, p. 77-80, (社) 日本建築学会	倉橋尉仁, 柏原士郎, 三好庸隆, 吉村英祐, 林 史朗, 横田隆司, 伊丹康二 概要: 住宅地内に立地する店舗など(街角施設)を計画的に導入した西神南ニュータウンとウッディタウンを対象として、街角施設に対する住民意識から、街角施設の導入計画に対する評価を行った。
128. 外部空間の構成からみた自然発生施設の特性について	共	2000年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 13-14, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 柏原士郎, 吉村英祐, 横田隆司, 阪田弘一 概要: 千里ニュータウンなど4つのニュータウンの戸建て住宅地に自然発生した店舗の建物構成や外部空間の構成を明らかにすることで店舗併用住宅の外観上の特徴を示し、戸建て住宅地内に店舗が発生した場合の景観上の問題点や配慮すべき点を指摘した。
129. Changes of retail Facilities and Houses in Senri New Town	共	2000年	(会議名) World Congress on Cultural Design for the New Millennium	Takashi Yokota, Koji Itami 概要: 千里ニュータウンの地区センターと近隣センターにおける店舗構成の経年変化を明らかにし、業種別の施設増減パターンを示した。
130. ニュータウンの戸建て住宅における自然発生施設に関する研究ー千里・泉北ニュータウンをケーススタディとしてー	共	1999年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 177-178, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 柏原士郎, 吉村英祐, 横田隆司, 阪田弘一 概要: 千里ニュータウンと泉北ニュータウンの戸建て住宅地に自然発生した店舗などの施設分布状況を明らかにした。
131. 千里ニュータウンにおける近隣センター内施設の経年変化に関する研究	共	1999年6月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第39号, p. 321-324, (社) 日本建築学会	横田隆司, 柏原士郎, 吉村英祐, 阪田弘一, 伊丹康二 概要: 千里ニュータウンの近隣センターにおける店舗構成の経年変化を明らかにし、業種別の施設増減パターンを示した。
132. 施設利用における時間的変動の最近の傾向について	共	1998年7月	日本建築学会 近畿支部研究報告集, 第38号, p. 289-292, (社) 日本建築学会	伊丹康二, 柏原士郎, 吉村英祐, 横田隆司, 阪田弘一 概要: オフィスビル、学校、コンビニエンスストアやスーパーマーケットなどの商業施設、カラオケボックスなどの娯楽施設の利用における時間的変動を明らかにすることで、週休2日制やフレックスタイム制の普及、あるいは夜間活動人口の増加に伴う施設利用の時間的変動の変化を示した。
3. 総説				
1. 公共施設マネジメントにおける個別施設計画の策定状況に関する研究ー大阪府及び大阪府下市町村における取組についてー	共	2019年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp. 81-82, (一社) 日本建築学会	七野司, 伊丹康二, 横田隆司, 飯田匡
2. 箕面公園プロジェクト 設計コンセプトの実現に向けた試行	単	2017年4月	建築と社会, 第98巻, 第1141号, pp. 50-53, (一社) 日本建築協会	概要: 大阪府箕面公園の夫婦橋休憩所・トイレの建替えに際し、官学連携により基本計画を作成し、その設計コンセプトを施工時および竣工後まで引継ぎ、利用のデザインを実践することで夫婦橋エリアの価値向上を試みた。本稿では、設計コンセプトを利用段階まで継承することの意義と効果を検証した

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3. 総説				
3. 観光路線と郊外路線の二面性を持つ林間田園都市駅に対する一提案	単	2017年4月	都市住宅学, 第97号, p. 40-43, (公社) 都市住宅学会	概要: 南海電鉄の林間田園都市駅周辺の地域施設の集積性や土地利用、および住民の生活行動や住意識を明らかにしたうえで、これらの調査結果をもとに、林間田園都市駅に「鉄道駅×道の駅」を整備することを提案した。
4. 公助としての指定避難所だけに頼らない地域づくりに向けて	単	2012年2月	TOYONAKA ビジョン22, 第15号, pp. 70-77, 豊中市 とよなか都市創造研究所	概要: 東日本大震災後に宗教施設が避難所として機能したことを解説し、都市部においても、避難所に指定されている公共施設のみに頼ることなく、宗教施設など災害時に身を守ることができる施設を発掘し、利用可能な状態にしておくことの必要性を説いた。
5. 地域と大学との連携における都市シンクタンクの役割	単	2007年3月	都市とガバナンス, 第8号, pp. 29-33, (公財) 日本都市センター	概要: 自治体シンクタンクである「豊中市政研究所」が、地域、大学、自治体との良好な連携関係を構築するためには、都市シンクタンクが大学や自治体ではなく、地域に軸足を置くことが重要であることを指摘した。
6. 千里ニュータウンの現状から「再生」の基本姿勢を考える	単	2006年3月	建築士, 第55巻, 第642号, p. 17, (公社) 日本建築士会連合会	概要: 千里ニュータウンの少子高齢化の現状を整理したうえで、「再生」に向け、住民、千里で生まれ育った人たち、開発事業者などの基本姿勢について提言を行った。
7. 千里ニュータウンにおける住民主体のまちづくり活動	単	2004年8月	マンション学, 第19号, pp. 63-67, (一社) 日本マンション学会	概要: 賃貸集合住宅の建て替えが進む千里ニュータウンにおいて、住民の声を反映した「千里ニュータウンのまちづくり指針」の策定に向けた動きを整理し、住民の声をいかに計画に反映させるか、問題提起を行った。
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1. 都市住宅学会賞 論説賞	単	2018年5月	(公社) 都市住宅学会	概要: 南海電鉄高野線の林間田園都市駅を対象として周辺の施設分布や住民の日常行動を分析したうえで、駅前に道の駅と鉄道駅の複合施設を整備することを、都市住宅学会の学会誌「都市住宅学」に提案、寄稿した。この寄稿が都市住宅学会賞 論説賞を受賞した。
2. 庄内温水プール跡スポーツ施設第2期工事基本計画	共	2017年4月	豊中市	概要: SHONAI L.O.O.P プロジェクトとして、豊中市の庄内温水プール跡を含むグリーンスポーツセンターの第2期工事の基本計画を、当研究室の学生（学部4年～大学院2年）とともに地域住民と対話しながら作成した。 担当者: 伊丹康二、飯田匡
3. 箕面公園夫婦橋休憩所・便所 基本計画	共	2014年2月	池田土木事務所	概要: 箕面公園プロジェクト2014として、大阪府営箕面公園の夫婦橋休憩所と便所の建て替えに際し、建築工学コースの有志（学部2年～大学院1年）とともに基本計画を作成した。 担当者: 伊丹康二、飯田匡、横田隆司
4. 法政大学地域政策研究賞 奨励賞	単	2009年3月	法政大学 地域研究センター	概要: とよなか都市創造研究所に在籍時に研究代表者として取り組んだ「豊中市の都市空間における集会機能の再編に向けた基礎研究」が、法政大学地域政策研究賞 奨励賞を受賞した。
5. 住宅総合研究財団 助成研究選奨	共	2005年6月	(財) 住宅総合研究財団	概要: 住宅総合研究財団の研究助成に採択（代表者: 大野拓也）された「成熟したニュータウンにおける施設体系の再編に関する研究—住民の生活ニーズに対応した地域施設のあり方について—」が、住宅総合研究財団 助成研究選奨を受賞した。
6. 日本建築学会設計競技「21世紀の『学校』」支部入選	単	1997年10月	21世紀の『学校』 日本建築学会設計競技優秀作品集, p. 75, (社) 日本建築学会	概要: 21世紀の学校を構想し、提案するという課題に対し、近隣住区理論に基づいて計画された千里ニュータウンを対象に、各住区の小中学校をテーマ型スクールとし、児童や生徒が複数の学校を利用することを提案した。同時に、地域住民などもそのテーマ型スクールを公民館や集会施設のように利用することで、多世代が学びあう未来の学校像を提案した。
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 「豊中市 次世代につながる 公共施設フォーラム」	共	2017年1月	豊中市 施設活用課	企画: 豊中市 登壇者: 伊丹康二、池澤龍三、吉田寛子、浅利敬一郎 豊中市が策定した「公共施設等総合管理計画」に対して、これからの公共施設の役割を展望し、可能性についてディスカッションを行った。
2. 公開研究会「公共施設の再編における地域コミュニティ拠点の住民による管理・運営化に向けた現状と課題」	共	2014年8月	(一社) 日本建築学会 公共施設マネジメント小委員会	企画: 西野辰哉 登壇者: 西野辰哉、伊丹康二、佐々木誠、池添昌幸 公共施設の再編手法の一つとして、地域コミュニティ施設を住民主体で管理・運営している事例をもとに、その意義と課題を整理した。
3. シンポジウム「ストックとしての公共住宅の現状と今後のマネジメ	共	2012年1月	(一社) 日本建築学会 公共施設マネジメント	企画: 伊丹康二 登壇者: 横山祐祐、長谷川洋、林健一郎、小杉学、

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
「の方向性」			ト小委員会	伊丹康二 公営住宅や公社住宅、UR住宅など公共住宅を取り巻く現状を、量的、質的な側面から整理したうえで、公共住宅における特徴的な取り組み事例をもとに、公共住宅のストックとしてのマネジメントについてその課題を整理した。
6. 研究費の取得状況				
1. 郊外住宅団地の再生方策	共	2017年4月	(株) 東急不動産R&Dセンターとの共同研究	東急不動産が開発した郊外住宅地（主に美原さつき野住宅（堺市美原区））を中心に、統計調査、住民へのアンケート調査、ヒアリング調査を行い、住宅団地を再生し地域活性化に資する方策を検討し、実践まで行うことを目標とする。（分担）
2. 「利他」的行動分析による郊外住宅地のソーシャルキャピタル醸成に資する地域施設再編	共	2015年4月	文科省の科学研究費（基盤研究（C））	住宅地を構成する住宅群と外部空間、近隣商業施設をコミュニティの場として捉え、その整備の方向性を探ること、ならびにそれらの地域施設を地縁的な活動やボランティア・NPO活動の創出拠点として整備し、「利他」的行動を含むソーシャルキャピタルの活動を活性化させるための地域再編計画を立てるための知見を得ることを目的とした。（分担）
3. 縮小時代における鉄道路線を軸にした郊外住宅地の社会的包摂空間としての再整備方策	単	2013年4月	文科省の科学研究費（若手研究（B））	鉄道沿線に広がる複数の郊外住宅地を包括的に捉え、周辺市街地の住民をも巻き込んだ地域共同体の再生に向けた、郊外住宅地の住環境再整備に向けた方策を提言した。（代表）
4. 大震災時の仮設住宅団地における持続的な生活環境改善支援のための多重分散システム	共	2012年4月	文科省の科学研究費（基盤研究（B））	東日本大震災後に建設された仮設住宅団地の生活環境を改善するための方策を、アクションリサーチの手法を用いた現地での実際の支援活動ならびに現地での詳細調査を通じて実施し、仮設住宅団地の供給実態や生活の様相などを明らかにすると共に、今後予想される大震災における仮設住宅の計画への新しいシステムのあり方を提言した。（分担）
5. 近隣商業機能とコミュニティ機能の充実による集合住宅団地の活性化、再生に関する研究	単	2009年4月	文科省の科学研究費（若手研究（B））	集合住宅団地の活性化、再生には、住居空間の改修だけでなく近隣商業機能ならびにコミュニティ機能の充実が必要である。さらに、団地単体で活性化を試みるだけでなく、周辺地域との関係の中で活性化を図ることが求められる。本研究では、周辺地域との関係の中で両機能の活性化を図る方策を提示した。（代表）
6. 行動経済学の概念を援用した郊外住宅地の衰退構造のモデル化と対応方策	共	2009年4月	(公財) 大林財団の研究助成	郊外住宅地の衰退構造の実態を把握し、行動経済学を援用したモデル化を通して、個々の住宅地の特性に応じた持続可能な活性化に向けた提言を行った。（分担）

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2018年4月2020年3月	(一社) 日本建築学会 建築計画委員会 公共施設マネジメント小委員会 主査
2. 2008年4月	(一社) 日本建築学会 建築計画委員会 住宅地計画小委員会 委員
3. 2008年4月	(一社) 日本建築学会 近畿支部 環境保全部会 幹事
4. 2008年4月	(一社) 日本建築学会 建築計画委員会 公共施設マネジメント小委員会 委員